老健施設で働く高齢介護助手が介護スタッフの身体的、精神的負担感に与える影響

背景・目的：介護現場の人材不足においては、就労を望む高齢者の活躍が望まれている。本研究では、高齢介護助手が老健施設で働く介護スタッフに与える影響を検討することを目的とした。

方法：高齢介護助手を採用している老健施設を対象として、郵送調査を行った。介護スタッフには、高齢介護助手を採用して良かった点と心配な点、および仕事に対する疲弊感（バーンアウト感情：以後、バーンアウト得点）を調査した。高齢介護助手の介護スタッフへの精神的負担感に対する効果を調べるため、各施設の平均バーンアウト得点と高齢介護助手割合の関係を検討した。また、高齢介護助手には仕事に対する身体的・精神的負担感を調査した。

結果：調査の結果、多くの介護スタッフが高齢介護助手の仕事に事故などの心配をしておらず、その存在が仕事量の負担軽減につながっていると回答した。また、高齢介護助手が多く採用されている施設ほど介護スタッフの平均バーンアウト得点が低い傾向にあることが明らかとなった（$r = -0.367, p = 0.035$）。多くの高齢介護助手は自身の仕事が利用者のためや、介護スタッフの負担軽減につながっていると回答したが、強い精神的負担感も感じていることが明らかとなった。

考察・結論：本研究から、高齢介護助手が介護スタッフの身体的、精神的負担感軽減に寄与していることが明らかとなった。就労方法など議論の余地が多く残っているが、高齢介護助手の採用は、介護人材不足に対する有用な手段である可能性が示唆された。